

中国における大学入学者特別選抜制度に関する研究

—「自主学生募集」に焦点をあてて—

宮 玉 婷

1. 問題の所在

現在、中華人民共和国（以下、中国）における大学入学者選抜は、全国統一大学入学試験の結果を基に行われている。文化大革命後の1977年に再開された同試験は、年に一回、全国同じ日程の連続三日間で実施される学力試験である。2012年度には、6月7日～9日に実施され、地域により違いはあるが、共通科目である国語、数学、外国語、その他、政治、歴史、地理、物理、化学、生物などの科目がある。中国の大学に入学するためには、原則として全国統一大学入学試験を受けなければならない。この試験については、国家教育部（以下教育部）の試験センターあるいは省が出題する問題により、公正かつ効率的に人材を選抜する制度であると評価される一方、総合的な能力を評価するには不適切な、学力に偏重した試験であるという批判がおきている。とりわけ1990年代以降、単一な形式では受験生の多様な個性を判断することはできないと指摘され、多様な能力を評価の基準とする入学者特別選抜方法の確立が目指された。

このような背景の下で、教育部は、2003年の「大学学生募集実施に関する通知」において、「大学入試制度改革を一層促進し、大学の学生募集自主権限の拡大、革新的人材の育成、素質教育の全面的な推進のために、2003年度より一部の大学で自主学生募集を実験的に展開する」とし、「自主学生募集」制度の導入を宣言した。同制度は、全国統一大学入学試験とは異なる方法で人材を選抜する特別入学試験制度である。2003年度には、重点大学を中心とする22大学が「自主学生募集」を導入し、2011年度には81大学まで増加した。

「自主学生募集」は、面接試験等を通じて、多元的な評価基準で受験生の能力を評価する新たな大学入学者選抜方法である。しかし、これに合格した受験生であっても、必ず全国統一大学入学試験を受験しなければならず、その成績が依然として選抜の主軸にある。つまり、大学独自の選抜試験において非常に優秀だと評価された受験生でも、全国統一大学入学試験の成績が当該大学の合格点に達しない場合は不合格となる。「自主学生募集」は、受験生の多様な個性を評価するための特別選抜試験として導入されたにもかかわらず、実際には、全国統一大学入学試験の結果に基づいて合否判定が行われている。

このような状況下において、2006年度より、復旦大学と上海交通大学は、全国で初めて面接結果をより重視する新たな方式の「自主学生募集」を導入した。上海交通大学の「上海市における大学自主学生募集改革実験に関する実施案」（2006年）では、全国統一大学入学試験の成績による制限を廃止し、特別選抜試験の結果を合否判定の決定要因とすると明記された。復旦大学でも、ほぼ同様の改革が実施されている。中国を代表する重点大学である両大学が、ほぼすべての学部においてこのような

新たな方式の「自主学生募集」を導入したことは画期的な出来事であり、社会の注目を集めた。筆者は、この事例の中に、今後の大学入試制度の在り方を考えるヒントがあると考えた。

「自主学生募集」に関する先行研究としては、政策の歴史を整理した羅（2007）の研究があり、大学の学生募集自主権と関わって課題を指摘している。鄭（2011）は、「自主学生募集」の公平性について論じている。また南部（2008）は、比較研究の視点から、「自主学生募集」を含めた中国の大学入試多様化政策の現状を明らかにしている。しかし、一般入試である全国統一大学入学試験の成績に縛られない大学独自の特別選抜試験を模索する、抜本的な改革が進められている「自主学生募集」の現状は、明らかにされていない。

2. 研究の目的と方法

本研究では、全国統一大学入学試験との関係に着目し、大学入学者特別選抜制度である「自主学生募集」の現状と課題を明らかにすることを目的とする。

上記の目的を達成するために、本研究では、以下の3つの課題を設定した。

課題①：中国における大学入学試験制度の歴史と現状を明らかにする。

中国の大学入学試験制度の歴史的推移と概要については、「教育体制改革に関する決定」（1985年）、「普通大学学生募集暂行条例」（1987年）等の政策文書、先行研究を資料としてまとめる。次に、大学入学試験制度の沿革と概要については、「普通高等教育の発展と改革の促進に関する意見」（1993年）、「普通大学学生募集に関する通知」（1999年）等の政策文書を資料として明らかにする。

課題②：「自主学生募集」制度とその導入の背景を明らかにする。

「自主学生募集」制度導入の背景を明らかにするために、これまでの全国統一大学入学試験制度の概要とそれに関する議論について、先行研究及び新聞記事等を資料として明らかにする。また、国の政策と大学の学生募集要項等を整理することで、「自主学生募集」制度の概要を明らかにする。

課題③：「自主学生募集」の実施状況を明らかにする。

「自主学生募集」の実施状況を明らかにするために、大学の学生募集要項を用い、その形式、評価内容と基準を明らかにする。特に、復旦大学と上海交通大学の「大学自主学生募集改革実験」導入の目的および評価基準を明らかにする。

この2つの大学は2003年度から「自主学生募集」を実施し、2006年度に大きくその方法を変更している。新たな方法の導入の背景を探るため、募集対象、選抜方法、可否判定基準等について新旧の制度比較を行う。

3. 論文の構成

序 章 問題の所在（背景、現状と研究の目的、研究課題と方法）

第一節 本研究の問題の所在

第二節 本研究の目的、課題、方法

第一章 中国における大学入学試験制度の変遷

第一節 1990年代までの大学入学試験制度の変遷

第二節 1990年代以降の大学入学試験制度の改革

第二章 「自主学生募集」制度と導入の背景

第一節 「自主学生募集」制度導入の背景

第二節 「自主学生募集」制度

第三章 「自主学生募集」改革の実態

第一節 復旦大学の「自主学生募集」改革

第二節 上海交通大学の「自主学生募集」改革

終章 本研究のまとめと今後の課題

第一節 本研究のまとめ

第二節 今後の課題

4. 論文の概要

第一章では、中国における大学入試制度の変遷を明らかにすることを目的として、二つの時期に分けて考察を行った。第一節においては、文化大革命の後に全国統一大学入学試験が再開される過程を整理した上で、①出願資格、②募集定員、③出願、④科目、⑤出題、⑥実施、⑦採点、⑧入学者決定の8つの点から、1990年代までの大学入学試験制度の変遷を考察した。1977年に全国統一大学入学試験が再開された後に、国によって進められていた試験科目の設置、出題範囲と大学の学生募集自主権限等を含めた大学入試制度改革について述べた。第二節では、1990年代以降の大学入学試験制度改革について、①受験資格の制限緩和、②大学学生募集自主権限の拡大、③試験科目の新設、④実施方法の変更、⑤「春の大学入試」の導入の5つの点から明らかにした。1990年代以降、「中華人民共和国高等教育法」に定められた大学の学生募集自主権の拡大や新たな試験科目設置案における取り組み、そして「春の大学入試」の導入等の改革について述べた。しかし、全国統一大学入学試験制度の学力偏重かつ単一的な入学者選抜方法である性質は変更されず、多様化した入学者選抜制度が時代の発展に求められた。

第二章では、中国における大学「自主学生募集」制度が導入された背景、および同制度の発展過程と現状について明らかにした。第一節では、「自主学生募集」制度が導入される背景として、①社会主義市場経済体制発展の需要、②政治改革の推進、③大学運営自主権の拡大の需要、④高等教育の発展、⑤知識経済の時代における革新的人材への需要、⑥高等学校の新カリキュラム改革等が挙げられた。

「自主学生募集」は、こうした社会的変化や教育改革の動向に合致する重要な高等教育改革施策という位置づけが分かる。第二節では、「自主学生募集」制度の全体像を明らかにすることを目的として、①「自主学生募集」の導入、②「自主学生募集」の展開過程、③「自主学生募集」のプロセス、④「自主学生募集」の実施状況、⑤「自主学生募集」の評価という5つの点から整理した。2003年以来試行されてきた「自主学生募集」は、全国統一大学入学試験による評価と大学自主的な選抜といった二重基準の下で、試験の得点を評価のメインとする多元的な学生募集制度である一方、受験生は全国統一大学入学試験を受験しなければならない、さらに、その得点が合否判定に当たって決定的な役割を果たしていることが分かる。

第三章では、復旦大学と上海交通大学の二つの事例を取上げ、「自主学生募集」の改革について考察した。両大学とも、2003年より「自主学生募集」を導入し、2006年以降、独自の改革を進めてい

る先進的な事例である。その改革の特徴を明らかにするために、ここでは 2003 年と 2006 年以降の制度を比較する方法を用いた。2003 年の導入期には、いずれの大学も「自主学生募集」合否判定の際に、全国統一大学入学試験の成績を基準としていた。復旦大学と上海交通大学における 2006 年より導入されている「自主学生募集」改革案は、大学により実施された面接試験および筆記試験あるいはキャンプの結果を、合否判定の決定要因とし、全国統一大学入学試験の成績が参考とされた入学者選抜方式であったことが明らかにされた。この点については、当初の改革案は全国統一大学入学試験を課さないものであった。しかし、教育部の許可がおりず、このような方式が採用された。

5. 本研究の結論

課題①については、中国の現在の大学入学試験制度は、文化大革命後の 1977 年に再開された全国統一大学入学試験が基本とされている。試験方法や試験科目等の改革が試みられたが、全国統一大学入学試験のみの選抜では、時代の変化に対応しきれない問題状況が確認できた。

課題②については、「自主学生募集」導入の背景として、とりわけ大きく影響したのは 90 年代に始まる「応試教育」から「素質教育」への教育政策の転換である。全国統一大学入学試験の学力偏重が問題視され、これに対応するために 2003 年より全国規模で展開されたのが「自主学生募集」であった。

課題③では、復旦大学と上海交通大学の二つの大学の事例から、「自主学生募集」改革は、全国統一大学入学試験から独立した大学入学試験制度となっていく方向へと進められている現状が明らかになった。

以上より、本研究の結論として、次のことが言える。

中国における大学入学者特別選抜制度である「自主学生募集」は、面接試験等の選抜方法を用いて受験生の総合的な資質能力を評価するために導入されたが、現状としては全国統一大学入学試験の成績を基準とした学力重視の選抜が行なわれている。先進的な事例の改革では、独立した選抜方法を用い、全国統一大学入学試験の成績を判定基準としない制度改革が目指されている。このことから、「自主学生募集」の課題は全国統一大学入学試験に依存しない選抜制度の構築であるといえる。今後、入試制度改革が進展するためには、独自の選抜を可能とする大学の自主権の実質化が求められている。

6. 主要参考文献

- ・ 罗立祝『高校招生考试政策研究』、华中师范大学出版社、2007 年
- ・ 张耀萍『高考形式与内容改革研究—基于利益博弈的视角』、华中师范大学出版社、2008 年
- ・ 郑若玲等『苦旅何以得纾解-高考改革困境与突破』、江苏教育出版社、2011 年
- ・ 南部広孝『中国高等教育における入学者選抜方法の多様化に関する研究 平成16年度～平成18年度 科学研究費補助金（若手研究（B））（課題番号 16730411）研究成果報告書』、2007年
- ・ 南部広孝、楠山研『中国の大学入学者選抜における「自主招生」の現状（資料集）平成19年度～平成21年度 科学研究費補助金（基盤研究（C））（課題番号：19530757）平成19年度中間報告書』、2008年

宮 玉婷（筑波大学大学院人間総合科学研究科教育学専攻 前期2年）